

読売新聞 きょう（9月20日）のイチ押し

1面 金融 外国人材増へ税軽減（本紙の特ダネです）

日本の国際金融センターとしての地位向上に向け、政府・与党は外資系金融機関や海外の金融人材の受け入れ拡大につながる制度を検討します。

- ★ 法人税や相続税の負担軽減、事業の許認可手続きでの英語対応の強化などが柱となります。
- ★ 自民党の外国人労働者等特別委員会が提言をまとめ、月内に政府に提出します。金融庁は、2021年度の税制改正要望で法人税や相続税の制度改正を求める方針です。

社会面など にぎわい少しずつ（イベント人数制限緩和）

4連休が始まった19日、新型コロナウイルスの影響で行われてきたイベントの参加人数制限が緩和されました。プロ野球のスタンドには、1万人前後のファンが集まり、各地の行楽地でも人並みが戻りつつあります。

大阪（伊丹）発着便は、全日空の予約数が前の週の約2倍に。世界遺産・清水寺周辺などの観光地は、多くの人出でにぎわいました。

1面など 羽生九段が竜王挑戦権 タイトル100期かけ

将棋の第33期竜王戦（読売新聞社主催）の挑戦者決定三番勝負第3局が、東京・千駄ヶ谷の将棋会館で行われ、羽生善治九段が丸山忠久九段に99手で勝ち、2勝1敗で豊島将之竜王への挑戦権を獲得しました。通算タイトル獲得数歴代1位の99期を記録している羽生九段にとって、前人未踏の「100期」をかけた戦いとなります。

他紙と比べて

日曜日の朝刊に掲載している「本 よみうり堂」は、3ページにわたる充実の書評面です。各界で活躍する人たちに紙上で理想の書店を開いてもらおう「空想書店」（第2週）、作家や研究者にデビュー作の思い出をその時代に重ねつつエッセーで振り返ってもらう「始まるの1冊」（第3週）などユニークな企画をそろえ、読書の世界に誘います。